

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	豊中市立南桜塚小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21	30
児童数	97	108	94	104	102	107	9	621	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりの子どもを大切に「学びの場」の創造

【今年度の重点目標】

- 個に応じた指導・学習の実現」のための評価及び指導方法の研究
 - ・基礎・基本の定着と個に応じた教材の開発
 - ・個を生かした指導方法の改善と共同指導体制の確立
 - ・指導に生かす評価の在り方

2. 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

本校では、「心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げている。また、平成12年度より学校改革として、「共同指導体制づくり」を推進している。その「共同指導体制づくり」のねらいは次の通りである。

一人の子どもを多くの指導者で見つめ、その子どものよさを伸ばしていく。
 多くの指導者が子どもを多面的に見ることにより、子どもや保護者からより信頼される指導を行う。
 子どもの指導に関わって教員が相互に交流することを通して、指導者としての力量を高めていく。

本校では、この特色ある共同指導体制づくりを通して、基礎・基本の学力の定着を目指している。既に高学年で実施している教科担任制、中学年の少人数分割指導によるきめ細やかな指導体制、低学年では生活科などにおける学年共同指導体制など、特色ある学校づくりの一つとして研究してきている。

少人数指導

中学年を中心に3人の加配を置き少人数指導を行っている。その理由は、低学年に比べ学習内容がかなり増え、内容も難しくなり学力差を生じやすくなるからである。教科としてはもっとも学力差を生じやすい算数について、3・4年の全時間を少人数授業とし実施するとともに国語でも取組みを進めていたが、国語においては成果がみえにくく、今年度新たに5年にも算数での少人数指導を拡大した。理科では3・4年を対象に平均週2時間を単元により少人数分割またはT・Tで取組んでいる。また、3・4年では、総合的な学習の時間の一部を加配等も含めた6人で少人数指導やT・Tによる指導を行っている。

教科担任制

高学年では加配を加えての共同指導体制で、一部教科担任制を取り入れながらも個に応じたきめ細かい指導を推進している。この指導体制は各担任が自分の得意な教科を他のクラスの児童にも指導することにより、一層の学力の向上をめざすものである。同時に子どもたちも多くの先生に指導してもらうことができ、新鮮な気持ちで意欲をもって学習に臨むことができる。

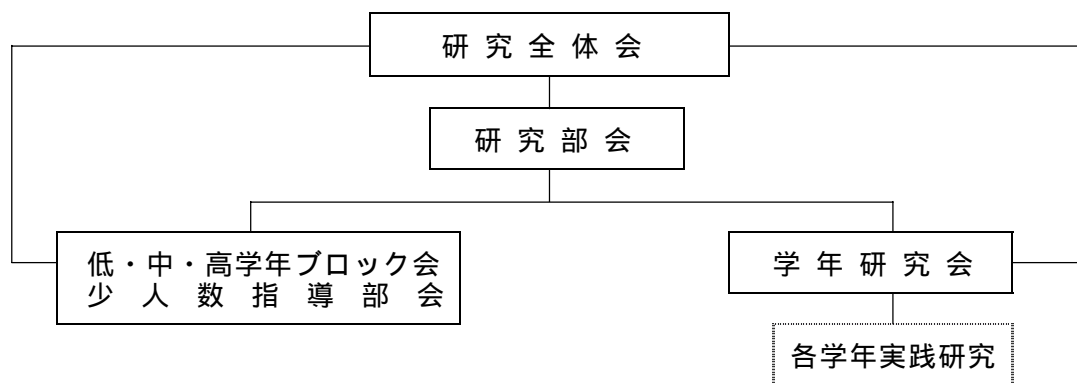
低学年における学年共同指導体制

低学年においても学級や学年の枠を外した取組みを行うことにより、共同指導体制につながる実践を進めている。1・2年合同の取組みや幼稚園・保育所との交流、保護者や地域の方々の支援を得ながら、学びの場を広げる取組みを実施している。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テ - マ 一人ひとりの子どもを大切にした『学び』の場の創造 仮説</p> <ul style="list-style-type: none">共同指導体制づくりを推進し、複数の目で子ども一人一人を見つめることによりそのよさを伸ばし学力向上をはかることができる。学力差が広がる中学年で少人数指導によるきめ細やかな指導を行うことにより学力の差を少しでもなくし高学年でのつまずきを減らすことにつながる。自己評価能力を育て、わかったこと、わからないことをはっきりさせ、次への課題を明確にすることにより学習意欲を高める。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">学年研究会・ブロック研究会・全体研究会を持ち、相互にその成果や課題を明確にしながら研究を進める。また外部より講師を招き指導、示唆を受ける。中学年において算数、国語、理科で子どもの興味関心に即した少人数によるきめ細やかな指導を行い、児童の楽しい『学び』を実現する。評価の在り方について研究を深めながら、基礎・基本の定着や学力の向上を図る。
平成15年度	<p>テ - マ 「個に応じた指導・学習の実現」のための評価及び指導方法の研究 仮説</p> <ul style="list-style-type: none">評価方法の工夫改善により意欲的に学習に取り組む子どもを育てる。目標に準拠した評価や個人内評価を推進することにより学習に意欲を持たせる。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">前年度の成果を踏まえ、指導と評価の一体化を進める。指導方法の工夫や改善に努める。また、それにかかわる記録や資料の整理を、客観的な資料として活用できるように実施していく。学力実態調査はもちろんのことではあるが、教材開発や指導方法に関わる評価にもより創意を凝らす。課題別選択学習にも力を入れ、児童がそれぞれ主体的に課題を選択し、自ら学ぶ喜びや達成感を実感するとともに、そうした児童支援を、到達度、習熟度により配慮した指導方法、研究をすすめていく。
平成16年度	<p>テ - マ 研究の成果をより、他校へ普及できるだけのスキルや資料づくりをめざし他のフロンティア校と共同で研究を進める。 仮説</p> <ul style="list-style-type: none">本校の高学年や低学年においても、個に応じたきめ細やかな分割指導の方策を検討し、一層学力の向上をめざす。多様な評価方法の研究により子どもたちの「生きる力」を育む。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">これまでの少人数指導による実践の成果を普遍化、共通化しまとめる。中学校をはじめとする近隣のフロンティア校と交流を密にし、連携を軸にした取組みを行うことにより、成果や課題を明らかにする。フロンティア校としての研究の成果を発表する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・共同指導体制は子どもたちを大切にした多様な学びの場を提供することができた。
- ・子どもたちの主体性を重視した課題別学習や体験的学習は授業の楽しさを味わわせることができた。
- ・テストごとにふりかえりカード（自己評価）を記入させることにより、指導者が児童の習得状況、関心や意欲を把握したり、指導者自身のふりかえりにも役立った。
- ・継続的に学識経験者を招聘し、助言をいただくことで、研究の方向性を明確にするとともに、深まりにつながった。
- ・昨年度の全国発表に引き続き、豊中市内を中心に研修会及び公開授業を実施し、本校の取組みについて発信することができた。

2. 今後の課題

- ・高学年における教科担任制は、教科による指導時数の違いや、理科及び音楽担当の教員が5・6年を指導することにより、時間割の作成や調整が相当複雑なものになっており、時間割についての話し合いに多くの時間をかけざるを得なかった。
- ・中学校との連携に向け、6年での少人数授業実施と教科担任制をどう考えて進めていくかが大きな課題である。

学力把握のための学校としての取組み

- ・テストごとにふりかえりカードを記入させることにより、児童の習得状況や関心や意欲を把握している。
- ・2年生以上を対象に算数における学習診断テストを実施し、定着度及びつまづき診断を実施し、指導に生かしている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・豊中市内を中心に研修会及び公開授業を実施し、普及に努めた。
- ・地区協議会等で積極的に発信し、他校との交流を数多く持った。
- ・本校の進学先で、フロンティア校の第三中学校とは、合同担当者会及び研究授業や協議を実施し、積極的に連携を進めた。
- ・ホームページを作成し全国に研究成果を報告するとともに、いつでも学校訪問していただけるような体制づくりを目指している。
- ・各種研究会機関誌などに積極的に成果や課題を報告し、より多くの意見を取り入れ充実した研究をすすめている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】 6 学級以下 7 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 8 学級 1 9 ~ 2 4 学級
 2 5 学級以下
- 【指導体制】 少人数指導 T . T による指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無
-